資料２

令和８年度 放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰の受賞者

令和８年１１月４日
原 子 力 規 制 庁

１．趣旨

本議題は、公益財団法人原子力安全技術センター、公益社団法人日本アイソトープ協会、公益財団法人日本分析センター及び放射線障害防止中央協議会（以下「主催団体」という。）が、放射線安全管理や環境放射能対策に尽力して優れた成果を挙げた者への原子力規制委員会委員長賞（以下「委員長賞」という。）の授与を決定したことを報告するものである。

２．経緯と表彰者の選考

〇令和６年度第 44 回原子力規制委員会（令和６年 11 月 20 日）において、主催団体の自主の表彰制度である放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰について、原子力規制委員会が後援を行うとともに委員長賞を授与することが了承された。これを受け、昨年度より、放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰が行われた。

〇今年度は、放射線安全管理功労者９名、環境放射能対策功労者３名の委員長賞受賞が、主催団体が設ける表彰委員会において決定された（別紙参照）。

【表彰者の選考要領】

〇表彰区分と表彰者の要件

１）放射線安全管理功労表彰

放射性同位元素等の取扱事業所等において、多年に亘り安全管理業務に従事し、安全確保に尽力した個人など

２）環境放射能対策功労表彰

環境放射能対策を実施している事業所等において、多年に亘り当該事業に従事し、環境放射能対策に尽力した個人など

〇選考方法

表彰区分ごとに評価基準に従って、推薦者から提出される推薦状等を審査し、採点結果の上位者から受賞者を選考する。

３．表彰式

原子力規制委員会委員長及び委員並びに主催団体の代表者等が出席し、受賞者に委員長賞を授与する表彰式を下記のとおり開催する。

日時：令和８年 11 月 16 日（月）10:30～11:10
場所：原子力規制委員会 13 階会議室

主催団体による公表資料抜粋

公益財団法人原子力安全技術センターホームページ「放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰について」
（URL：https://www.nustec.or.jp/korohhyosho/korohhyosho01.html）

別紙

令和８年度　放射線安全管理功労・環境放射能対策功労者

放射線安全管理功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
いがらし　たかゆき 五十嵐　隆元	元国際医療福祉大学成田病院	複数の医療機関において放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。 また、放射線安全管理に関する多数の論文を執筆するとともに、日本放射線技術学会をはじめとする関連学協会にて各種委員を務め、被ばく評価や健康への影響などに関する調査研究活動において優れた成果を挙げた。
いちぢ　たけし 伊知地　猛	一般財団法人電力中央研究所	電力中央研究所の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。 また、関連学協会において各種委員を歴任し、放射線安全管理に関する制度の整備や技術の発展に寄与してきた。 さらに、多数の学会での発表や論文を多く手掛け、放射線安全管理に関する知識の普及や安全文化の醸成に貢献している。
いながき　まさよ 稲垣　昌代	学校法人近畿大学	近畿大学原子力研究所の放射線安全管理業務を多年に亘り主導し、安全確保に尽力するとともに、教育・研究基盤の維持発展に貢献した。 また、放射性物質測定に関する研究成果の発表や外部機関での講師活動を通じて、安全管理技術の向上と人材育成に貢献し、関連学協会にて表彰されるなど、その功績は高く評価される。
さとう　かずのり 佐藤　和則	国立大学法人東北大学	東北大学の複数の放射線施設において安全管理業務に多年に亘り従事し、放射線安全管理体制の維持・向上に尽力した。 また、放射線管理に係る研究に参画し、得られた成果を発展させて合理的な放射線管理システムを構築するとともに、論文や学会での発表を通じてその知見の普及と後進の育成に貢献している。

氏名	所属	業績
しばた　みちひろ 柴田　理尋	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学	名古屋大学の放射線施設全体の安全管理業務を統括するとともに、放射線安全管理教育の中心的な役割を担ってきた。 また、関連学協会の要職を歴任し、制度や技術の発展に寄与するなど、安全管理業界をけん引してきた。 さらに、学術論文や専門書を多数執筆し、知識の普及と安全文化の醸成に貢献している。
なかしま　さとる 中島　覚	国立大学法人広島大学	広島大学における放射線安全確保に関する中心的な役割を果たしてきた。 また、日本放射線安全管理学会の理事、会長を務めるとともに、多数の関連学協会の要職を担い、放射線安全管理に関する制度整備や技術の発展に寄与してきた。 さらに、学術論文や専門書を多数執筆するなど、安全管理に係る功績は顕著である。
なかじま　ゆみこ 中島　裕美子	国立大学法人九州大学	琉球大学および九州大学の安全管理業務に多年に亘り従事し、放射線安全管理体制の維持・向上に尽力した。 また、関連学協会の要職を歴任し、活動を通じて放射線安全管理に関する知見の普及・発展に尽力するとともに、大学放射線施設における安全文化の醸成と継承にも顕著な功績を挙げた。
ふたつかわ　しょうじ 二ツ川　章二	アルファ・タウ・メディカル株式会社	日本アイソトープ協会の廃棄業に係る施設において、放射性廃棄物の安全確保に多年に亘り貢献した。 また技術基準の整備や法令改正、ガイドライン策定に貢献し、RI 等規制法の成立にも寄与する一方で、関連学会での活動を通じた安全文化の醸成や各種説明会の講師等として国民の不安解消に尽力した。
ほった　まさお 堀田　雅雄	株式会社シーエックスアール	株式会社シーエックスアールの放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、放射線の適正な管理・運営に尽力している。 また、日本非破壊検査工業会において、放射性同位元素等安全管理員会の委員長を務め、安全管理指針の策定など、非破壊検査業界における放射線安全管理の発展に大きく寄与した。

（計 9 名）

環境放射能対策功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
さいとう　たかし 齋藤　隆	福島県農業総合センター	東京電力福島第一原子力発電所事故後の農地土壌調査により、水田土壌における放射性セシウムの分布状況を把握し、カリウム施肥による玄米中放射性セシウム吸収抑制技術を確立したことで、福島県における安全・安心な米生産体制の構築に大きな成果を挙げた。また、除染後農地における放射性セシウム濃度及び土壌肥沃度のばらつきの可視化と改善技術の開発に取り組み、地域農業の復興と再生に大きく貢献した。
とこなみ　しんじ 床次　眞司	国立大学法人弘前大学	環境放射能に関する調査・研究に長年従事し、ラドン計測技術、環境放射線モニタリング及び被ばく線量評価手法の発展に成果を挙げた。東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境放射能調査、被ばく線量評価等を通じて復興支援に尽力し、青森県の原子力施設における環境放射線等監視への多年に亘る貢献もある。また、ISO 及び IEC におけるラドン測定等の国際規格策定をプロジェクトリーダーとして主導し、国際的な放射線防護及び環境放射能対策の発展に寄与した功績は大きい。
やまもと　まさよし 山本　政儀	国立大学法人金沢大学	石川県の原子力施設における環境放射線モニタリング及び調査・研究に多年に亘り尽力し、環境放射能対策に大きく貢献した。また、環境中の超ウラン元素、極微量放射能測定及び環境動態研究等の環境放射能に関する研究において多大な成果を挙げた。環境試料中のプルトニウム分析における日本を代表する専門家であり、東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境放射能モニタリングにおいてもプルトニウム等の超ウラン元素の影響評価に大きく貢献した。

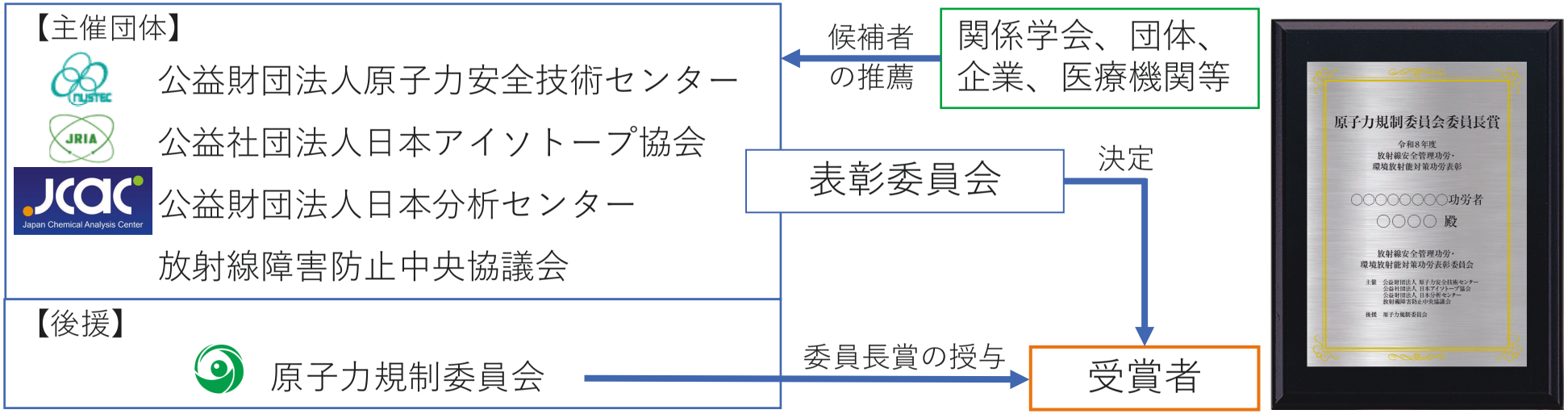
（計 3 名）

放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰

○放射性同位元素等の安全管理や環境放射能対策に尽力して優れた成果を挙げた者への表彰。
　原子力規制委員会は、委員長賞を授与している。
○受賞者は、主催団体が設ける表彰委員会において決定される。

【表彰区分と表彰者の要件】
1）放射線安全管理功労表彰
- 放射性同位元素等の取扱事業所等において、多年に亘り安全管理業務に従事し、安全確保に尽力した個人など

2）環境放射能対策功労表彰
- 環境放射能対策を実施している事業所等において、多年に亘り当該事業に従事し、環境放射能対策に尽力した個人など



参考

主催団体による公表資料抜粋

令和７年度　放射線安全管理功労・環境放射能対策功労者

放射線安全功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
いぬい　えみこ 乾　恵美子	国立大学法人山形大学	山形大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。シニア、小中学生対象の講義実習等をとおして大学内外の放射線教育の推進に貢献した。また、福島第一原子力発電所事故後の山形県内の土壌調査等地域活動をとおして、放射線安全の啓発活動に貢献した。
おおかわら　けんいち 大河原　賢一	製薬放射線コンファレンス	塩野義製薬株式会社の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、製薬放射線コンファレンスの世話人代表として、製薬業界における放射線安全管理のあり方の検討、協力体制の構築、人材育成に貢献した。
かまだ　としみつ 釜田　敏光	ポニー工業株式会社	ポニー工業株式会社の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。放射線安全規制検討会の委員、非破壊検査工業会の活動等をとおして、放射線を用いた非破壊検査における標準化の確立等、非破壊検査における放射線安全管理に貢献した。
かわの　たかお 河野　孝央	株式会社日本遮蔽技研	筑波大学及び核融合科学研究所の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、自然放射性物質を使用した放射線源を開発し、従事者教育とともに一般公衆への啓発活動に貢献した。福島第一原子力発電所事故後は、地域住民への放射線計測技術の伝授等により地域活動に貢献した。
はぎわら　まさゆき 萩原　雅之	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	高エネルギー加速器研究機構及び量子科学技術研究開発機構の放射線安全管理業務に従事し、安全確保に尽力した。国内外の放射光施設における実績を体系化し、安全管理システムの改良等により、実験ホールを非放射線管理区域に設定する等、放射光施設の安全管理体制の構築に貢献した。

ひがき　しょうご 桧垣　正吾	国立大学法人東京大学	東京大学の放射線安全管理業務に従事し、安全確保に尽力した。さらに、学内だけではなく、大学等放射線施設協議会事務局代表として全国の国公私立大学等の放射線安全確保に貢献した。また、日本アイソトープ協会の講習会講師を務める等、放射線安全管理教育をはじめ、幅広く放射線安全の発展に貢献した。
ふくし　まさひろ 福士　政広	つくば国際大学	東京都立大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。教育機関の教員として多年に亘り多くの診療放射線技師を輩出し、人材育成に貢献した。また、日本医学物理学会防護委員会、日本保健物理学会等の学会活動及び荒川区等への放射線安全啓発活動により、放射線安全管理の発展に貢献した。
まがた　　やすひろ 間賀田　泰寛	国立大学法人浜松医科大学	京都大学及び浜松医科大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。PET 施設の安全管理等に従事し、核医学における放射性医薬品の適正利用、安全管理、従事者教育等に貢献した。
ますもと　かずよし 桝本　和義	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	東京大学原子核研究所及び高エネルギー加速器研究機構の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、学会活動等をとおして、加速器による放射化物の安全基準の策定等、加速器の安全管理体制の構築に貢献した。
まつだ　なおき 松田　尚樹	国立大学法人長崎大学	長崎大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、学内外における安全管理教育に努め、人材育成に貢献した。さらに、福島第一原子力発電所事故直後の原子力災害対策本部医療班としての活動等をとおして地域活動に貢献するとともに、放射線審議会委員として、国内の放射線安全管理体制の確立に貢献した。
みやけ　ひとし 三宅　均	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 核融合科学研究所	核融合科学研究所の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。核融合施設における放射線安全管理体制の構築に貢献した。また、大規模学術フロンティア事業の指定を受けた重水素実験における安全確保に尽力した。

（計 11 名）

環境放射能対策功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
きむら　ひでき 木村　秀樹	国立大学法人 弘前大学	原子力施設の集中する青森県の施設周辺の環境放射線モニタリングに係る業務に多年に亘り従事し、青森県における環境放射能対策及び人材育成等に尽力した。また、国等の委員を数多く務め、原子力災害対策指針策定の検討を行う等、その経験及び知見を活かして環境放射能対策に貢献した。
たがみ　けいこ 田上　恵子	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	環境放射能に係る調査研究に多年に亘り従事し、環境試料中の長半減期放射性核種の分析や挙動解明の論文を多数著し優れた成果を挙げた。また、国及び関連学会等の委員を数多く務め、福島第一原子力発電所事故後の食品中放射性物質の基準値策定に関わる等、その経験及び知見を活かして環境放射能対策に貢献した。
つかだ　ひろふみ 塚田　祥文	国立大学法人 福島大学	環境放射能分析及び調査研究に多年に亘り従事し、福島第一原子力発電所事故後は、福島県を拠点として農業対策、食物摂取による内部被ばく線量評価、除染検証、教育等に貢献した。また、国及び地方自治体等の委員を数多く務め、環境放射能研究等に関する国内外での講演も多く行い普及啓発や人材育成につなげる等、その経験及び知見を活かして環境放射能対策に貢献した。

（計３名）